

あいさつ運動の好事例

瀬戸内市立行幸小学校

(児童数 373名 教職員数 34名)

児童が取り組む「あいさつ運動」

～ 運営委員会が主体となつての取組 ～

アピールポイント

「気持ちのよいあいさついっぱい为学校にしたい」という思いをもち、運営委員会の児童が中心となつて、自分たちでできることを考え取り組んでいる。全校のあいさつの様子や自分たちの活動状況について定期的に振り返り、さらによくなるように新たな取組を計画、実施している。

実際の様子



(校内放送で流した映像の様子)

取組の概要

■児童生徒の実態

元気な声で進んであいさつができる児童がいる。しかし、あいさつされても返さない、教師にはするが地域の人にはしていないなど、課題も多くある。

■活動内容

毎週2日、火曜日と木曜日の朝に運営委員会の児童が計画を立て、あいさつ運動に取り組んでいる。登校してきた運営委員会の児童が運動場に立ち、後から登校してくる他の児童にあいさつをしている。また、全校のあいさつの様子や自分たちの取組状況を振り返り、改善を図っている。あいさつ運動の映像を校内放送で流し、全校児童のあいさつに対する意識を高めようとしている。

これらの取組以外にも、PTAが行うあいさつ運動や登下校中の見守りボランティアの方の協力もあり、地域や保護者、学校が協力して気持ちのよいあいさつが広がるように取り組んでいる。

■取組の参加メンバー

運営委員会児童、運営委員会担当教員、PTA、校長、教頭、見守りボランティアの方

■成果・効果

あいさつ運動に取り組む運営委員会の児童のあいさつに対する意識が高くなってきた。大きな声を出そう、友達の名前を言ってからあいさつをしようなど、あいさつ運動が盛り上がる方法を自主的に考え、問題意識をもって活動に取り組んでいる。また、全校のあいさつの様子も、回数を重ねるごとによくなってきているように感じる。